

平成30年度 学校評価報告書

学校番号(小25) 長崎市立(式見小)学校

1 教育目標

四気満ちて笑顔の花咲く学校
 ○やる気：自ら進んで勉強する子・学力の向上を目指す学校
 ○こん気：粘り強く努力する子・美しく静かな学校
 ○げん気：元気に運動する子・健康で安全な学校
 ○ゆう気：優しく思いやりのある子・子どもの笑顔があふれる学校

2 学校経営方針

○子ども・保護者・地域から親しまれ、信頼される学校づくりに邁進する。
 ○学習・生活習慣の基礎基本の徹底を図り、学力向上に全力で取り組む。
 ○全職員の共通理解と共同実践によって、教育目標の具現化に努める。
 ○教育専門家としての自覚をもって研修に励み、子どもの可能性をのばす学級・学校の実現に努める。
 ○式見小学校いじめ防止基本方針を基盤に据え、子どもの人格を重んじ、子どもを全力で守り育てる決意をもって、個性を生かす指導に努める。
 ○教育環境・学習環境の整備と美化に努め、子どもの心身の健全な発達を図る。

3 重点目標

〈最重点事項〉
 児童が安心して学べる、保護者が安心して通わせられる学校・学級づくりをとおして、信頼される学校づくりに全職員一致団結して取り組む。

4 自己評価

| 領域 | 項目 | 質問内容 | アンケート結果 | | | 分析及び改善策 |
|-------|-----------|---------------------------|-----------|-----|-----|---|
| | | | (肯定的割合・%) | | | |
| | | | 児童生徒 | 保護者 | 教職員 | |
| 学校経営 | 教育目標 | 教育目標を達成している | 84 | 86 | 100 | 保護者の評価が昨年より若干下がっているが、一昨年の数値よりは向上している。授業参観や学校行事等で児童の学習の様子を公開したり、通信やホームページ等で教育目標や学校の様子などを発信し続けたことで、本校の教育活動やその成果が保護者に浸透し、理解を得ることができた結果と捉えている。 ※児童・保護者の数値が90%以上になるように、今後更に学校教育目標の具現化を目指し、取組を強化していく。 |
| | 学校の雰囲気 | 明るく楽しい雰囲気である | 87 | 88 | 90 | |
| | 組織運営 | 校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している | | | 90 | |
| | 業務の改善 | 校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している | | | 90 | |
| 心の教育 | 生活・生徒指導 | ルールやマナーを身に付けている | 89 | 86 | 90 | 今年度は「あいさつ・言葉遣い」の指導に力を入れて取り組んできた結果、児童・保護者の数値が昨年より向上している。一昨年度の保護者の数値が58%であり、この2年であいさつの実践・習慣化の指導の成果が大きく表れてきていると考える。また、確かな児童理解に基づく教育相談活動や、いじめ防止対策、人権・平和教育の項目もすべて90%以上の結果となり、本校の教育活動の成果は実感となって、児童・保護者に浸透してきていると考える。 ※あいさつ指導の充実のために、児童会の取組を活発化させるとともに、PTAによるあいさつ運動も継続する。 ※「あ・は・は運動」の更なる周知を図るために、児童への日常の指導を強化するとともに、懇談会や通信等を利用して、保護者にも啓発を促していく。 ※児童理解のためのアンケートや児童、保護者との個人面談を継続する。 |
| | | 挨拶をよくしている | 90 | 81 | 100 | |
| | | 「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ) | 84 | 81 | 80 | |
| | | 教職員は悩みや相談に親身に対応している | 94 | 95 | 100 | |
| | いじめ防止対策 | 学校はいじめ防止のための対策をとっている | 95 | 95 | 100 | |
| | 人権教育 | 生命や人権を尊重しようとする心が育っている | 95 | 93 | 100 | |
| | 平和教育 | 平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている | 98 | 93 | 90 | |
| | 特別支援教育 | 学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている | 97 | 95 | 80 | |
| 確かな学力 | 特色ある学校づくり | 伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている | 83 | 100 | 90 | 全般的に昨年度とほぼ同様に、数値が若干向上した結果となっている。なかでも特色ある学校づくりの保護者の数値の向上については、中学校との合同開催行事を増やしたことが大きな要因と考えられる。「わかりやすい授業」の児童の数値については、教職員の日々の指導の成果であり、今後の授業実践への励みとなる結果である。課題であった「家庭学習」については、保護者の数値が昨年度より約10ポイント改善し、指導の成果が表れてきている。取組の継続・強化を今後も図っていく。 ※家庭学習に関して、基礎基本の定着のための内容や学年に応じた自主学習等にも取り組むことを学校・家庭で共通理解を図る。 |
| | 学習指導・教育課程 | わかりやすい授業を行っている | 100 | 91 | 90 | |
| | | 家庭学習の習慣が身に付いている | 89 | 77 | 100 | |
| | キャリア教育 | 将来の自立に向けて適切に指導している | 95 | 93 | 90 | |

| | | | | | | |
|---------|------------|------------------------------|----|-----|-----|--|
| 健やかな体 | 保健・衛生 | 衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている | 87 | 93 | 100 | 保護者・教職員の数値はほぼ全てで向上し、90%を大きく超える結果となっているが、児童の数値は90%を下回る結果となった。保護者・教職員は各項目の指導実践への評価を行ったのに対し、児童は自分の目項の状況について評価したため、乖離が現れたと考えられる。児童の数値が向上するように取組の継続・強化を図っていく必要がある。 ※生活リズムノートの活用・定着を図る。 ※フィットネスチャレンジへの参加を継続する。 ※スマホ等のメディアやゲームなどに関する指導を行い、より良い生活リズムの定着を図る。 |
| | 体力向上 | 早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている | 79 | 100 | 90 | |
| | | 体力向上に努めている | 89 | 95 | 90 | |
| | 食育 | 食に関する教育活動を行っている | 84 | 95 | 100 | |
| 信頼される学校 | 安全管理 | 児童生徒の安全に気を配っている | 95 | 98 | 100 | 児童・保護者ともに数値が大きく向上している。特に安全管理と情報提供の保護者の数値は昨年度より約10ポイント向上している。学校・学級・保健室通信やホームページ等での情報発信により、安全管理を含めた学校の取組が保護者に浸透してきた結果だと考えている。「職員の資質向上」の数値が昨年度より12ポイント下がっている。新たな研究にシフトし、その研究成果が十分に現れていないことが要因と考えられる。研究を継続・深化させることで数値は改善していくと考える。 ※ホームページの更新を継続するとともに、その啓発を図っていく。 ※校内研究の更なる充実を図っていく。 |
| | 情報提供 | 学校の状況は通信やHP等で知ることができる | 87 | 98 | 90 | |
| | PTA・地域との連携 | 学校はPTAや地域との連携がとれている | 92 | 93 | 90 | |
| | 職員資質向上 | 研修が充実し、資質が向上している | | | 80 | |
| 教育環境 | 環境整備 | 教育環境が充実し、整備されている | 89 | 93 | 100 | 若干だが、保護者の数値は向上し、児童の数値は下がっている。学校内外の施設・設備の老朽化は進んでいるが、教育環境整備に引き続き努めていく。職場環境については、ワークアズライフを大切にしながら、協力して働きやすい職場づくりに努めていく。 ※安全点検、修繕、補修を確実に実施する。 ※定時退庁日の取組を継続していく。 |
| | 職場環境 | 学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる | | | 90 | |

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

ほぼ全ての項目で肯定的割合が80%以上となり、その半数以上は90%以上という高評価となっている。児童数67名、家庭数50名という小規模校ではあるが、小規模校の良さを生かし、保護者・地域とのつながりを大切にした学校経営を実践してきた結果だと考えている。また、式見中学校と様々な行事を行うなど連携を深めながら、ともに教育活動を推進してきたことも、保護者・地域の理解を得ることができた大きな要因と捉えている。次年度以降、本校への教育活動への関心や期待がより高まってくると考えられるので、日々の教育活動を一つ一つ確実に推進していき、学校評価の数値の改善を図っていききたい。具体的には、数値が他より低かった「家庭学習」や保護者・教職員の数値と生徒の数値が乖離が見られた「健やかな体」、「職員の資質向上」等に関して、次年度は力を入れて取り組むとともに、今年度成果が表れた「あいさつ・返事」指導については、PTA・児童会の取組を今後も継続させながら、更なる向上を図っていく。

6 学校関係者評価

学校関係者評価委員会(1/23実施)での意見

- 学校評価アンケートについて、保護者が学校での児童の様子を全て把握しているわけではないため、保護者は評価がむずかしかったのではないだろうか。
- 子どもたちは地域であいさつをよくしてくれている。学校が重点目標として取り組んだ指導の成果だと感じている。
- 保護者の評価がよくなっている。子どもの評価もよい。これは、学校の指導をしっかりと受け止めている結果だと捉えている。評価の低い項目においても、正直に評価していることの表れで、次年度にぜひ生かして欲しい。
- 学校行事に参加して、子どもたちの頑張りを感じた。また、いじめや学習に関する子どもの評価から、学校が落ち着いていることが伝わってきた。
- 児童数が減ってきていることで、先生方の目がより行き届くようになり、評価の数値がよくなってきているのではないか。
- 保育園では園児の足腰を鍛えている。小学校でも子どもたちが元気に外で遊ぶ姿をもっと見たい。保育園・幼稚園からのつながりを大切にするために、小学校の連携を深めていくとよい。
- 学童では上学年が下学年の世話をよくしている。その姿を園児も見ているので、よい影響や効果があると思う。縦のつながりを今後も大切にしていきたい。
- 卒業生が式見を出て、違う地域の学校に通うようになると、あいさつをしなくなる状況があり、気がかりである。
- スマートフォンなどの新しい問題が式見小でも起きていないか心配である。式見でも今後スマートフォンの所持率が高くなると思う。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

- 子ども・保護者・地域から親しまれ、信頼される学校づくりを進めるために、引き続き学校教育目標、学校の取組、児童の様子などを積極的に発信し、学校の教育活動への理解を深める。(PTA総会、教育週間、学級懇談会、役員会、学校だより、ホームページ等)
- 保護者や地域の願いを学校運営に生かすために、保護者や地域の方々の意見を聞く機会を設定するとともに、その内容を充実させる。(教育週間、学級懇談会、個人面談、学校評価アンケート等)
- 子どもと地域の方々がふれあう機会を設定するとともに地域の教育力を指導に生かす。(社会に開かれた教育課程の編成、地域人材の活用、地域行事への参加の呼びかけ)
- 児童の好ましい習慣作りに努める。(学習規律の確立、家庭学習の習慣化、生活リズムノートの充実)
- 幼保小連携会議を活用して、子ども同士に加え、職員同士の交流活動の充実を図る。
- スマートフォンを含め、メディア機器やSNSとの正しい活用法を学ぶ研修会等をPTAと連携して実施する。